

No. 7

2024/3/27

小野友道の

お節介な戯言

ラテックスと果物の関係



ラテックスアレルギーと診断され、日頃から用心していた看護師さん、昼食時バナナを頬張ったところ、唇が派手に腫れて皮膚科を訪れた。典型的なラテックスフルーツ症候群と診断されました。ラテックスとバナナ、どんな関係あるのだろうか。植物もカビや害虫やその他の敵（？）に襲われても自ら動いて逃げることができない。でも何とか傷つかないように防御する手立てが欲しいと神様にお願いしたかどうかわからないが、ズーと昔「生体防御タンパク質」なる仕掛け持ったのである。ラテックスはその代表である。このラテックスの一部で抗体と結びつく部分（エピトープと呼ばれる）が、バナナの抗原とIgE抗体に対する共通エピトープを有しているのです。多くの植物にこの生体防御タンパク質があり、例えばクリスマス poinsettia の葉や茎を少し傷つけるとラテックスのような白いものが出ますがこれも生体防御タンパクです。多くの植物性食品にこのラテックスと共通のエピトープを持つものが知られています。バナナはもちろん、アボガド、トマト、キューイ、クリ、マンゴー、ポテト、そば、イチゴと挙げたら切りがありません。動けない植物の懸命な防御手段がこの生体防御タンパク質で、抗カビ作用や病虫害防除活性などの機能を有しているといわれています。

ラテックスアレルギーと診断されたことのある看護師さん、気にしすぎておいしい果物が食べられないと困りますが、口に入れた時口の中や周り何やらむずむずしたら、ひょっとしたら果物たちの叫び声がしているのです。アナフィラキシーを引き起こすことはまずないようで、口腔、咽頭に限局的な症状です。

同じようなことが口腔アレルギー症候群と呼ばれる病態として知られています。これは花粉を吸入して感作（抗体ができる）されると、その後花粉などと交差するタンパクを有する植物性食品を食べると、口腔などが腫れ、ラテックスフルーツ症候群に似た症状が起こります。これらはクラス2食物アレルギーと呼ばれるタイプのアレルギーに分類されています。